

第1回 共通教育再編WG議事要録（案）

日 時：令和3年7月26日（月）16時50分～18時00分

形 態：オンライン会議（Microsoft Teams）

出席者：奥田学長特別補佐（座長）、高橋共通教育主管（初年次部会長、外国語部会長）、中川人文社会科学部長、岡谷教育学部長、津江理工学部長、枝重農林海洋科学部長、大石地域協働学部長、塩崎大学教育創造センター長、佐々データサイエンス部会長

欠席者：菅沼医学部長

陪席者：高橋学務部長、中山学務課長、松田学生課長、藤原物部総務課長、有澤学務課長補佐、西村学務課専門員、斎藤教育学部教務係長、福島理工学部教務係長、東学生課教務係長、黒田物部総務課学務係長、河淵学務課全学・共通教育係員、阿賀学務課全学・共通教育係員、山中学務課全学・共通教育係員

配付資料：

- 共通教育再編WG委員名簿
- 共通教育再編WGの設置について [資料1]
- 高知大学共通教育再編に係る実施要綱（案） [資料2]
- 関係規則等
 - ・高知大学共通教育の教育課程に関する規則 [資料3-1]
 - ・高知大学全学教育機構会議委員会規則（共通教育実施委員会抜粋） [資料3-2]
 - ・高知大学共通教育実施委員会の運営に関する要項 [資料3-3]
 - ・高知大学学則（抄） [資料3-4]
- 第4期中期目標・中期計画（素案） [資料4]
- 高知大学学部における卒業要件単位数一覧 [資料5]
- 高知大学共通教育における各学部担当（ノルマ）コマ数一覧 [資料6]
- 令和2年度共通教育開講科目数・受講者数一覧（分野別・学部別） [資料7]
- 共通教育科目ナンバリング「大分類」「中分類」「小分類」コード [資料8]
- 令和3年度国立大学教養教育実施組織会議及び事務協議会における承合事項
 - ・全学共通教育（基盤教育）の今後の方向性等について（茨城大学提案） [資料9-1]
 - ・教養教育における授業担当コマ数の決定方法について（高知大学提案） [資料9-2]
- 高知大学の学士課程教育改革の基本方針（平成22年3月）共通教育抜粋 [資料10]

【議題】

1. 共通教育の再編（初年次科目及び担当体制の見直し）について

奥田座長から資料1に基づき、本WG設置の経緯について説明が行われたあと、資料2に基づき、実施要綱案として、共通教育再編の目的・趣旨、検討体制と役割、部会の検討の方針、スケジュール等について説明があった。

その後、質疑応答（内容は下記のとおり）が行われたあと、審議の結果、資料2の実施要綱案については原案どおり了承された。

また、本学の全教員を対象に、高知大学共通教育の教育課程に関する規則第14条第1項の規定に則ったアンケート調査（共通教育が定めるナンバリングコード表から担当できる分野を選択してもらう形式のアンケート）を実施し、検討の基礎資料としたいとの提案があり、併せて了承された。

続いて、共通教育再編及び担当体制見直しを検討するための参考資料として、資料3から資料10についての概要説明が行われた。

《質疑応答の概要》

津江委員：現在の共通教育における理念を見直す予定はないのか。

奥田座長：時間的余裕がないこともあり、原則的には手を付ける予定はない。

津江委員：「3. 部会の検討の方針」によると、方針というよりは、部会の進行を誘導しているように見受けられるが、その点は如何なものか。

理工学部からは、大学基礎論及び課題探求実践セミナーは廃止したいとの意見を出したが、それが反映された内容にはなっていない。

奥田座長：全学教育機構会議において、学部から科目の廃止等について意見を伺っているが、全学的に共通教育の枠組みは維持していく必要がある。それを踏まえ、本WGから部会に示す方針案として、これら初年次科目（大学基礎論、学問基礎論、課題探求実践セミナー）を共通教育に置くことを原点とし、ある一定の方針を定めておくことは必要と考えている。

ただし、これは部会の議論を縛るという意味ではないことは申し上げておく。

枝重委員：農林海洋科学部も初年次科目の大学基礎論及び課題探求実践セミナーは廃止したいとの意見を出したが、「2. 検討体制と役割」にも記載のあるとおり、教員数が減少していく中で、データサイエンス関連は新設されたとしても、共通教育全体としてはスリム化を図っていくという認識でよいか。

奥田座長：本学と同規模の他大学で開講している共通教育科目（クラス）数等と比較し、本学の共通教育科目数が妥当であるのか否か、また、教員数が減少する中で、現行の担当体制（基本ノルマ数）とのギャップ等を考慮し、そのなかで効率的かつ効果的な教育方法、教育内容というものについて十分な議論を行いながら、共通教育の理念を達成するための教育課程を編成することが最重要であると考えます。

大石委員：実施要綱案において、共通教育担当体制の議論について、どこで行うのかについて記載がないように思うが、どうなっているのか。

奥田座長：担当体制の検討については、「2. 検討体制と役割」に記載のとおり、本WGで行う。具体的には、WG開催前に打合せメンバーにて案を作成後、本WGに諮り、結論を得ることを目標としている。

大石委員：本WGと3つの部会の関係性が分かりづらいが、どうなっているのか。

部会で案を作成し、WGに提案してもらったイメージを持っていたが、実際にはWGから部会に大枠案を下ろすというイメージなのか。

奥田座長：そうではなく、各部会で検討した案をWGにあげてもらったことを基本とする。

先ほど、「3. 部会の検討の方針」の箇所で申し上げたのは、部会に検討を依頼する上で、何も方針がないよりは、座長として考えられる方向性を示し、イメージし易いように例示した方が検討しやすいのではないかと考えたからである。

中川委員：「3. 部会の検討の方針」の大学基礎論に関する記載の趣旨について、これはオムニバス形式による授業を想定しているのか。

また、様々な専門分野を志してくる学生全体に対し、最適となる新たな大学基礎論の展開を想定しているのか伺いたい。

奥田座長：現在の大学基礎論は、学部で閉じた状態で開講されている。大学基礎論を一つの学部で閉じてしまえば、学問基礎論と同じになってしまうのではないかと考えた。本学は総合大学であるのだから、他学部の専門や異分野を知ることも意義のあることではないかと考えた。なお、オムニバスを想定しているわけではない。総合大学としてのメリットを活かした内容となるよう、具体的な議論は初年次部会で行っていただきたい。

岡谷委員：「4. 授業担当教員としての登録」に関し、今後の共通教育担当体制については、各学部には振っている基本（ノルマ）数を廃止し、例えば、登録制による担当体制に変更をすることを考えているのか。

現在は、学部の各分野に振られた基本（ノルマ）数を学部内でさらに調整している。例えば、教育学部では、外国語科目や体育実技の科目数の確保等について、今後は考えなくてよくなるのか。

奥田座長：現時点では、新たな担当体制のイメージはできていない。

今回、本学教員に対し、共通教育における担当可能分野を問うアンケート調査を行うこととしたい。

共通教育の教育課程に関する規則にあるとおり、本学教員は、本来であれば、共通教育の科目区分に従い、そのいずれかに授業担当候補者として登録することとなっているが、学部の改組や教員の入れ替わり等により、実際はこれまで行われてこなかった。

今回この調査を行う目的は、本学の教育資源がどの程度あるのかについて把握することで、共通教育における教育課程や担当体制の在り方等を検討する上での基礎資料とするためである。

現行のノルマ制は、学部のみで課せられているが、現在の共通教育科目では、実際にセンター教員も担当されている中で、全学的にどのくらいの教育資源があるのか、それを見た上で検討の材料として活用させていただきたい。

大石委員：今回の共通教育再編では、医学部の共通教育も含めて行うのか。

奥田座長：医学部には、共通教育における全学的なノルマは配当されていない。医学部の共通教育は、一部を除き、岡豊キャンパスで完結しているため、今回の再編では、その点には触れない予定である。

ただし、医学部学生が週一回、朝倉キャンパスへ教養科目の履修に来ていることに関し、これが効果的に行われているかについては検証を行いたいと考えている。

大石委員：医学部は、医学部以外の学生に対するノルマを持っていないだけであって、実際には15のノルマを持っており、医科大学時代からこれまで単独で共通教育を開講してきた。

現在はオンライン授業が普及したため、医学部学生には、医学部以外の先生が開講する授業を積極的に受講してもらってもよいのではないかと。

また、一方で医学部の先生が持っている優れた教育資源を、医学部以外の学生に対し、オンライン授業というかたちで一定程度開放いただければ、受講する学生にとって非常に大きなメリットがあるのではないかと。

奥田座長：医学部の先生が他学部の学生に対し、オンライン授業等を提供可能ということであれば、その仕組み作りについて検討していきたい。

佐々委員：データサイエンスの導入に関しては、文科省から全学必修が求められているので、医学部のみ別枠というわけにはいかないと思うので、その方向で検討いただきたい。

奥田座長：本学におけるデータサイエンスに関するリテラシーレベルの教育プログラムについて、文科省から認定をもらう必要がある。全学的に必修とする方法等については、データサイエンス部会で調整いただくこととなる。

また、医学部には、独自の医学情報教育に関する先生の集まりがあるので、そこと連携を密に取りながら対応することなども考えられる。

岡谷委員：オンデマンドの授業を蓄積することで、各学部教員の負担を軽減するような構想は持っておられないのか。また、学生に対する制度的なオンライン授業の履修の枠組み等については考えておられるのか。

奥田座長：オンデマンド授業では、教育の質の保証と学生の評価をきっちり行わなければならないので、枠組みというよりは、どうやって質の高い良い授業を提供していくのかという観点で提案の中に盛り込んでいきたいと考えている。

2. その他

なし。